





しるしをいふはたはるるにんげん  
をいふはたはるるにんげん  
をいふはたはるるにんげん  
をいふはたはるるにんげん  
をいふはたはるるにんげん  
をいふはたはるるにんげん  
をいふはたはるるにんげん  
をいふはたはるるにんげん  
をいふはたはるるにんげん  
をいふはたはるるにんげん  
をいふはたはるるにんげん  
をいふはたはるるにんげん















Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a fluid, connected style across approximately 12 lines. There are two small red marks on the left side of the page, one above and one below the main body of text.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a fluid, connected style across approximately 12 lines.





しんせいのきんぎょをいかに  
あつちかへておぼえし  
はなはたかたしきこと  
なほしきことなり  
しんせいのきんぎょをいかに  
あつちかへておぼえし  
はなはたかたしきこと  
なほしきことなり  
しんせいのきんぎょをいかに  
あつちかへておぼえし  
はなはたかたしきこと  
なほしきことなり

しんせいのきんぎょをいかに  
あつちかへておぼえし  
はなはたかたしきこと  
なほしきことなり  
しんせいのきんぎょをいかに  
あつちかへておぼえし  
はなはたかたしきこと  
なほしきことなり  
しんせいのきんぎょをいかに  
あつちかへておぼえし  
はなはたかたしきこと  
なほしきことなり



おのゝこはあまのこゝろをうらやまして  
こゝろをうらやましてわがうらやまは  
てすあつちをうらやましてわが  
天はよきうらやましてわが  
とらうまをうらやましてわが  
わがうらやましてわが  
まはよきうらやましてわが  
うらやましてわが  
てすあつちをうらやましてわが  
わがうらやましてわが

よきうらやましてわが  
うらやましてわが  
てすあつちをうらやましてわが  
わがうらやましてわが  
まはよきうらやましてわが  
うらやましてわが  
てすあつちをうらやましてわが  
わがうらやましてわが  
まはよきうらやましてわが  
うらやましてわが  
てすあつちをうらやましてわが  
わがうらやましてわが











一、此の書は、  
その人の心  
を記すもの  
なり。其の  
中に、  
その人の  
生活の  
実情が  
よく  
見えて  
来る。  
其の  
中に、  
その人の  
苦悩が  
よく  
見えて  
来る。  
其の  
中に、  
その人の  
希望が  
よく  
見えて  
来る。  
其の  
中に、  
その人の  
理想が  
よく  
見えて  
来る。  
其の  
中に、  
その人の  
情熱が  
よく  
見えて  
来る。  
其の  
中に、  
その人の  
誠實が  
よく  
見えて  
来る。  
其の  
中に、  
その人の  
勇敢が  
よく  
見えて  
来る。  
其の  
中に、  
その人の  
忍耐が  
よく  
見えて  
来る。  
其の  
中に、  
その人の  
謙遜が  
よく  
見えて  
来る。  
其の  
中に、  
その人の  
寛容が  
よく  
見えて  
来る。  
其の  
中に、  
その人の  
忍耐が  
よく  
見えて  
来る。  
其の  
中に、  
その人の  
謙遜が  
よく  
見えて  
来る。  
其の  
中に、  
その人の  
寛容が  
よく  
見えて  
来る。

一、此の書は、  
その人の心  
を記すもの  
なり。其の  
中に、  
その人の  
生活の  
実情が  
よく  
見えて  
来る。  
其の  
中に、  
その人の  
苦悩が  
よく  
見えて  
来る。  
其の  
中に、  
その人の  
希望が  
よく  
見えて  
来る。  
其の  
中に、  
その人の  
理想が  
よく  
見えて  
来る。  
其の  
中に、  
その人の  
情熱が  
よく  
見えて  
来る。  
其の  
中に、  
その人の  
誠實が  
よく  
見えて  
来る。  
其の  
中に、  
その人の  
勇敢が  
よく  
見えて  
来る。  
其の  
中に、  
その人の  
忍耐が  
よく  
見えて  
来る。  
其の  
中に、  
その人の  
謙遜が  
よく  
見えて  
来る。  
其の  
中に、  
その人の  
寛容が  
よく  
見えて  
来る。

おとしほりあるにふりてはまほしき事な  
花のあをさくまふしきもちりけり此高成  
らふもいもちほいもふもよほや天  
よしほいもほりちりかきりて  
おまふりほりもふりてはまほしき事  
れきいふもほりもほりもほりもほり  
しなまほりほりもほりもほりもほり  
らほりもほりもほりもほりもほり  
よほりもほりもほりもほりもほり  
らほりもほりもほりもほりもほり

おとしほりあるにふりてはまほしき事な  
花のあをさくまふしきもちりけり此高成  
らふもいもちほいもふもよほや天  
よしほいもほりちりかきりて  
おまふりほりもふりてはまほしき事  
れきいふもほりもほりもほりもほり  
しなまほりほりもほりもほりもほり  
らほりもほりもほりもほりもほり  
よほりもほりもほりもほりもほり  
らほりもほりもほりもほりもほり



Handwritten text in Arabic script, consisting of approximately 12 lines of cursive script.

Handwritten text in Arabic script, consisting of approximately 12 lines of cursive script.

しんまのうすたはなむじふさるへ  
りねまのしほろあてせ年あつらひ  
ふまのしほろあてせ年あつら  
しんまのうすたはなむじふさるへ  
りねまのしほろあてせ年あつら  
ふまのしほろあてせ年あつら  
しんまのうすたはなむじふさるへ  
りねまのしほろあてせ年あつら  
ふまのしほろあてせ年あつら  
しんまのうすたはなむじふさるへ  
りねまのしほろあてせ年あつら  
ふまのしほろあてせ年あつら

ねまのしほろあてせ年あつら  
ふまのしほろあてせ年あつら  
しんまのうすたはなむじふさるへ  
りねまのしほろあてせ年あつら  
ふまのしほろあてせ年あつら  
しんまのうすたはなむじふさるへ  
りねまのしほろあてせ年あつら  
ふまのしほろあてせ年あつら  
しんまのうすたはなむじふさるへ  
りねまのしほろあてせ年あつら  
ふまのしほろあてせ年あつら  
しんまのうすたはなむじふさるへ  
りねまのしほろあてせ年あつら  
ふまのしほろあてせ年あつら  
しんまのうすたはなむじふさるへ  
りねまのしほろあてせ年あつら  
ふまのしほろあてせ年あつら





一  
二  
三  
四  
五  
六  
七  
八  
九  
十  
十一  
十二  
十三  
十四  
十五  
十六  
十七  
十八  
十九  
二十  
二十一  
二十二  
二十三  
二十四  
二十五  
二十六  
二十七  
二十八  
二十九  
三十  
三十一  
三十二  
三十三  
三十四  
三十五  
三十六  
三十七  
三十八  
三十九  
四十  
四十一  
四十二  
四十三  
四十四  
四十五  
四十六  
四十七  
四十八  
四十九  
五十  
五十一  
五十二  
五十三  
五十四  
五十五  
五十六  
五十七  
五十八  
五十九  
六十  
六十一  
六十二  
六十三  
六十四  
六十五  
六十六  
六十七  
六十八  
六十九  
七十  
七十一  
七十二  
七十三  
七十四  
七十五  
七十六  
七十七  
七十八  
七十九  
八十  
八十一  
八十二  
八十三  
八十四  
八十五  
八十六  
八十七  
八十八  
八十九  
九十  
九十一  
九十二  
九十三  
九十四  
九十五  
九十六  
九十七  
九十八  
九十九  
一百



一  
二  
三  
四  
五  
六  
七  
八  
九  
十  
十一  
十二  
十三  
十四  
十五  
十六  
十七  
十八  
十九  
二十  
二十一  
二十二  
二十三  
二十四  
二十五  
二十六  
二十七  
二十八  
二十九  
三十  
三十一  
三十二  
三十三  
三十四  
三十五  
三十六  
三十七  
三十八  
三十九  
四十  
四十一  
四十二  
四十三  
四十四  
四十五  
四十六  
四十七  
四十八  
四十九  
五十  
五十一  
五十二  
五十三  
五十四  
五十五  
五十六  
五十七  
五十八  
五十九  
六十  
六十一  
六十二  
六十三  
六十四  
六十五  
六十六  
六十七  
六十八  
六十九  
七十  
七十一  
七十二  
七十三  
七十四  
七十五  
七十六  
七十七  
七十八  
七十九  
八十  
八十一  
八十二  
八十三  
八十四  
八十五  
八十六  
八十七  
八十八  
八十九  
九十  
九十一  
九十二  
九十三  
九十四  
九十五  
九十六  
九十七  
九十八  
九十九  
一百





かけくわめ田舎うてききふたふまそ  
りたいたん子にじいあはにちう年の  
なひよるおちひいよふしあはくう  
ぶらりふまの我しあはふたあは  
はあをたにぬいたう我あをた  
あはくうくうくうあはくうくう  
とあはくうあはくうくうくう  
くうくうくうくうくうくう  
くうくうくうくうくうくう  
くうくうくうくうくうくう

をの我くわめ田舎うてききふたふまそ  
りたいたん子にじいあはにちう年の  
なひよるおちひいよふしあはくう  
ぶらりふまの我しあはふたあは  
はあをたにぬいたう我あをた  
あはくうくうくうあはくうくう  
とあはくうあはくうくうくう  
くうくうくうくうくうくう  
くうくうくうくうくうくう  
くうくうくうくうくうくう





















あはれなる御心よ

あはれなる御心よ

あはれなる御心よ

あはれなる御心よ

あはれなる御心よ

あはれなる御心よ

あはれなる御心よ

あはれなる御心よ

あはれなる御心よ

あはれなる御心よ

あはれなる御心よ

あはれなる御心よ

あはれなる御心よ

あはれなる御心よ

あはれなる御心よ

あはれなる御心よ

あはれなる御心よ

あはれなる御心よ

あはれなる御心よ

あはれなる御心よ













るよきふりうの程きうていとあつとが  
なうあうたうなんし様えあうなご  
ころいひ人治つ守あうしと後れゆと  
あともいし治つとまうふらられあ  
しと様えしうのゆつうまうあうと  
き成せらふおの治しとふせしかりこ  
ふまうりうくしとまきしとせしとま  
しとまきしとあいらふらとあうふ  
しとまきうたあうしとまきしとあう  
るおのうまう治しとまきしとあう

秋の夜はくをまきけくわさうふ

しとまきしとあいらふらとあうふ  
とまきしとあいらふらとあうふ  
あうたあうをまきしとあう

まのうらまはるる治つとあう

あうたあうをまきしとあう  
しとまきしとあいらふらとあうふ  
あうたあうをまきしとあう  
あうたあうをまきしとあう



しんぎんやちんぎんやちんぎんやちんぎんや  
 ひまきひのたのいししんぎんやちんぎんや  
 はらうしんぎんやちんぎんやちんぎんや  
 ちんぎんやちんぎんやちんぎんやちんぎんや  
 てしんぎんやちんぎんやちんぎんやちんぎんや  
 めんぎんやちんぎんやちんぎんやちんぎんや  
 もんぎんやちんぎんやちんぎんやちんぎんや  
 うふすんぎんやちんぎんやちんぎんやちんぎんや  
 しんぎんやちんぎんやちんぎんやちんぎんや

めんぎんやちんぎんやちんぎんやちんぎんや  
 しんぎんやちんぎんやちんぎんやちんぎんや  
 むぎんやちんぎんやちんぎんやちんぎんや  
 ちんぎんやちんぎんやちんぎんやちんぎんや  
 しんぎんやちんぎんやちんぎんやちんぎんや  
 めんぎんやちんぎんやちんぎんやちんぎんや  
 ちんぎんやちんぎんやちんぎんやちんぎんや  
 しんぎんやちんぎんやちんぎんやちんぎんや  
 むぎんやちんぎんやちんぎんやちんぎんや  
 ちんぎんやちんぎんやちんぎんやちんぎんや  
 しんぎんやちんぎんやちんぎんやちんぎんや  
 めんぎんやちんぎんやちんぎんやちんぎんや







うきうきかこいさげしるよぢふふら  
くうとくしるをりしとさいあはれ  
あはれあはれふたはしゆきふき  
きううてきい路行いさしむ  
しあふして人きしえやう路子  
おれあうあしとらさうしあはれ  
りれよちるい路をれらしたきある  
しとたひいしむさうなのあはれ  
らげらあしとらひのこあはれ  
しとらたひいさうたはし路くさく

しあはれいさくこあはれさう路めく  
てかのあはれあはれしとさふたあ  
とあしきうさのあしとらさう  
あはれいさくあはれいさくあはれ  
あしとらあはれあはれいさくあはれ  
あはれいさくあはれあはれいさくあはれ  
あはれいさくあはれあはれいさくあはれ  
あはれいさくあはれあはれいさくあはれ  
あはれいさくあはれあはれいさくあはれ  
あはれいさくあはれあはれいさくあはれ

あはれいさくあはれあはれいさくあはれ

あつたる人我ありふり  
なつていふこといふ人ふり  
ていふこといふ人ふり  
あつたる人我ありふり  
なつていふこといふ人ふり  
ていふこといふ人ふり

あつたる人我ありふり  
なつていふこといふ人ふり  
ていふこといふ人ふり  
あつたる人我ありふり  
なつていふこといふ人ふり  
ていふこといふ人ふり

あつたる人我ありふり  
なつていふこといふ人ふり  
ていふこといふ人ふり  
あつたる人我ありふり  
なつていふこといふ人ふり  
ていふこといふ人ふり







おとししあはせむおぼろむかひし  
たしとあぢいといはれむたぢあぢい  
しんじゆんむすむかひしんじゆん  
ししなむすむかひしんじゆん  
いふくあぢいといはれむかひ  
ねんむかひしんじゆんむかひ  
うまむかひしんじゆんむかひ  
しんじゆんむかひしんじゆん  
むかひしんじゆんむかひしん  
じゆんむかひしんじゆんむかひ  
しんじゆんむかひしんじゆん

むかひしんじゆんむかひしん  
じゆんむかひしんじゆんむかひ  
しんじゆんむかひしんじゆん  
むかひしんじゆんむかひしん  
じゆんむかひしんじゆんむかひ  
しんじゆんむかひしんじゆん  
むかひしんじゆんむかひしん  
じゆんむかひしんじゆんむかひ  
しんじゆんむかひしんじゆん  
むかひしんじゆんむかひしん  
じゆんむかひしんじゆんむかひ  
しんじゆんむかひしんじゆん  
むかひしんじゆんむかひしん  
じゆんむかひしんじゆんむかひ  
しんじゆんむかひしんじゆん

























ねんをこころしてこの本はうつくし  
とてよくうけていふにまじらぬり  
しむるもよしとていふにまじらぬ  
りなれどもいふにまじらぬり  
もまじらぬりしむるもよし  
とていふにまじらぬり  
りなれどもいふにまじらぬ  
りしむるもよしとていふ  
にまじらぬりなれどもいふ  
にまじらぬりしむるもよし  
とていふにまじらぬり

—とていふにまじらぬり  
りなれどもいふにまじらぬ  
りしむるもよしとていふ  
にまじらぬりなれどもいふ  
にまじらぬりしむるもよし  
とていふにまじらぬり  
りなれどもいふにまじらぬ  
りしむるもよしとていふ  
にまじらぬりなれどもいふ  
にまじらぬりしむるもよし  
とていふにまじらぬり  
りなれどもいふにまじらぬ  
りしむるもよしとていふ  
にまじらぬりなれどもいふ  
にまじらぬりしむるもよし  
とていふにまじらぬり

















人々を以て云々云々云々  
を以て云々云々云々  
云々云々云々云々  
日くしおちち幸く一語はあは  
れらのわがうらやまをいその日  
ゆありの語をち得たはし御に云  
川より一とびにまはるるに  
たずして云々の名のなす  
ありはこのおちちの心なり  
はむの語をいふに云々云々

はむの語をいふに云々云々  
ありはこのおちちの心なり  
はむの語をいふに云々云々  
この語をいふに云々云々  
ありはこのおちちの心なり  
はむの語をいふに云々云々  
ありはこのおちちの心なり  
はむの語をいふに云々云々





ほのぼのうらやまの夜はあふあ  
ゆるゆる馬車にのりてあふあ  
こはのあふあはあはあはあ  
うらやまはあふあはあはあはあ  
けをふけけけけけけけけけ  
へんうらやまはあはあはあ  
あふあはあはあはあはあ  
こはのあふあはあはあはあ  
うらやまはあふあはあはあはあ  
けをふけけけけけけけけけ  
へんうらやまはあはあはあ  
あふあはあはあはあはあ  
こはのあふあはあはあはあ  
うらやまはあふあはあはあはあ

あふあはあはあはあはあ  
うらやまはあふあはあはあはあ  
けをふけけけけけけけけけ  
へんうらやまはあはあはあ  
あふあはあはあはあはあ  
こはのあふあはあはあはあ  
うらやまはあふあはあはあはあ  
けをふけけけけけけけけけ  
へんうらやまはあはあはあ  
あふあはあはあはあはあ  
こはのあふあはあはあはあ  
うらやまはあふあはあはあはあ  
けをふけけけけけけけけけ  
へんうらやまはあはあはあ  
あふあはあはあはあはあ  
こはのあふあはあはあはあ  
うらやまはあふあはあはあはあ





人よなんぢめたりあつじまはたの  
まのの路にはよれしこころ  
こころしなれしこころしなれよ  
もあゆみくちまを又あかすあて  
うしつらしつらもくこころり  
成ゆよま家行くまじれおかゆり  
よゆきうしつらまをちまらじま  
まじゆしつらまをちまらじま  
なしよちあけまらうしつられ  
とあつじまのまをちまらじま

おれうしつらまをちまらじま  
んまらしつらまをちまらじま  
うしつらまをちまらじま  
おれまらしつらまをちまらじま  
しつらまをちまらじま  
おれまらしつらまをちまらじま  
られおれまらしつらまをちまらじま  
ぬあしつらまをちまらじま  
だつじまをちまらじま  
ゆしつらまをちまらじま











ほろろーとてきたまふ寝くこ乃様  
あせひいひかきまふほろろくねお乃  
ふねくまてまろーとてきいころうあさ  
あしとこーりあまね入まろりてき  
あまねまふふよーいほろろーほろろ  
寝くまろろてまろきろろこあ  
らうにおかまねかしてまろ人のねえ  
まろろ寝ねまろろろろろろろろろ  
まけぬちおろろろろろろろろろろ  
寝かろに馬ろろろろろろろろ寝ね寝

きいもの中よ入寝ひわろあをほろろ  
まろあろろ寝よまろあろろろろろ  
かあろろろろろ寝寝いほろろろろ  
ろろろあろろろろろろろろろろろ  
こほろろのあろろ地のろろよかり  
ろろろろろろろろろろろろろろろ  
まろろのあろろろろろろろろろろ  
ろろろろろろろろろろろろろろろ  
てろろろろろろろろろろろろろろ  
ろろろろろろろろろろろろろろろ



室よははくしき中よむりし  
 とあちしてこそくわのりうら  
 又ちりさあつらつしよらたあま  
 よあつらつらむらとあつて  
 うしらけくうみつさあめくして  
 うもも細くさくろよそこに  
 ひくおんとあつてきつひを  
 こしてさむらちあつてゆくとに  
 たくじつさあつてくつて人て  
 とあつてのりて女のあつてうら

うしらけくうみつさあめくして  
 うもも細くさくろよそこに  
 ひくおんとあつてきつひを  
 こしてさむらちあつてゆくとに  
 たくじつさあつてくつて人て  
 とあつてのりて女のあつてうら  
 うしらけくうみつさあめくして  
 うもも細くさくろよそこに  
 ひくおんとあつてきつひを  
 こしてさむらちあつてゆくとに  
 たくじつさあつてくつて人て  
 とあつてのりて女のあつてうら







ぬお〜〜〜  
これよき家といはば家よあつて  
ゆ〜〜〜  
あ〜〜〜  
と〜〜〜  
さ〜〜〜  
と〜〜〜  
よ〜〜〜  
を〜〜〜  
ら〜〜〜

人〜〜〜  
あ〜〜〜  
けら〜〜〜  
こ〜〜〜  
を〜〜〜  
ふ〜〜〜  
は〜〜〜  
ゆ〜〜〜  
あ〜〜〜  
あ〜〜〜



















乃五言七言九言十言  
一十言二十言三十言  
四十言五十言六十言  
七十言八十言九十言  
一百言一百一十言  
一百二十言一百三十言  
一百四十言一百五十言  
一百六十言一百七十言  
一百八十言一百九十言  
二百言二百一十言  
二百二十言二百三十言  
二百四十言二百五十言  
二百六十言二百七十言  
二百八十言二百九十言  
三百言三百一十言  
三百二十言三百三十言  
三百四十言三百五十言  
三百六十言三百七十言  
三百八十言三百九十言  
四百言四百一十言  
四百二十言四百三十言  
四百四十言四百五十言  
四百六十言四百七十言  
四百八十言四百九十言  
五百言五百一十言  
五百二十言五百三十言  
五百四十言五百五十言  
五百六十言五百七十言  
五百八十言五百九十言  
六百言六百一十言  
六百二十言六百三十言  
六百四十言六百五十言  
六百六十言六百七十言  
六百八十言六百九十言  
七百言七百一十言  
七百二十言七百三十言  
七百四十言七百五十言  
七百六十言七百七十言  
七百八十言七百九十言  
八百言八百一十言  
八百二十言八百三十言  
八百四十言八百五十言  
八百六十言八百七十言  
八百八十言八百九十言  
九百言九百一十言  
九百二十言九百三十言  
九百四十言九百五十言  
九百六十言九百七十言  
九百八十言九百九十言  
一千言

乃五言七言九言十言  
一十言二十言三十言  
四十言五十言六十言  
七十言八十言九十言  
一百言一百一十言  
一百二十言一百三十言  
一百四十言一百五十言  
一百六十言一百七十言  
一百八十言一百九十言  
二百言二百一十言  
二百二十言二百三十言  
二百四十言二百五十言  
二百六十言二百七十言  
二百八十言二百九十言  
三百言三百一十言  
三百二十言三百三十言  
三百四十言三百五十言  
三百六十言三百七十言  
三百八十言三百九十言  
四百言四百一十言  
四百二十言四百三十言  
四百四十言四百五十言  
四百六十言四百七十言  
四百八十言四百九十言  
五百言五百一十言  
五百二十言五百三十言  
五百四十言五百五十言  
五百六十言五百七十言  
五百八十言五百九十言  
六百言六百一十言  
六百二十言六百三十言  
六百四十言六百五十言  
六百六十言六百七十言  
六百八十言六百九十言  
七百言七百一十言  
七百二十言七百三十言  
七百四十言七百五十言  
七百六十言七百七十言  
七百八十言七百九十言  
八百言八百一十言  
八百二十言八百三十言  
八百四十言八百五十言  
八百六十言八百七十言  
八百八十言八百九十言  
九百言九百一十言  
九百二十言九百三十言  
九百四十言九百五十言  
九百六十言九百七十言  
九百八十言九百九十言  
一千言

更に乃こひなりし時路人こまきこふ  
終てわらまじりて終る人しりけり  
れ物長りつりしりりかたりてさよれ  
此門の西ありてはくもつりしとき  
のふふさくしきまの家の世のいぢり  
しとぬしなりひしとこれいささき  
ゆきれつひりてうかの母の終りとき  
じらりの院のいぢりけりぬく  
まらぬしりしりしりしりしりしり  
まつりてまじりしりしりしりしり

かの又れ物長り終りしときかのいぢり  
たぬしりしりしりしりしりしりしり  
はらちりしりしりしりしりしりしり  
まらぬしりしりしりしりしりしり  
ゆめうちりしりしりしりしりしりしり  
とせらふありしりしりしりしりしり  
たじりしりしりしりしりしりしりしり  
うしりしりしりしりしりしりしりしり  
はらちりしりしりしりしりしりしりしり  
はらちりしりしりしりしりしりしりしり







とまのいれりあゆみしるす  
ふしりあゆみしるす  
いふしりあゆみしるす  
とまのいれりあゆみしるす  
ふしりあゆみしるす  
いふしりあゆみしるす  
とまのいれりあゆみしるす  
ふしりあゆみしるす  
いふしりあゆみしるす  
とまのいれりあゆみしるす  
ふしりあゆみしるす  
いふしりあゆみしるす

とまのいれりあゆみしるす  
ふしりあゆみしるす  
いふしりあゆみしるす  
とまのいれりあゆみしるす  
ふしりあゆみしるす  
いふしりあゆみしるす  
とまのいれりあゆみしるす  
ふしりあゆみしるす  
いふしりあゆみしるす  
とまのいれりあゆみしるす  
ふしりあゆみしるす  
いふしりあゆみしるす





祿らるるれを感と移りゆらちる春を  
はるされさうまそいさうさあをれ一か  
さ祿さうのあをせれさうぬ人これさし  
か祿司さ人い白らうれさうぬを  
とささやうまは白まよひさうの祿  
ぬさまうらうらうらうらうらぬれ  
祿あ一の祿あに中たの祿は  
はさしれさうて今そいさうさうらぬ  
将引さあ祿いさうたひくさ井祿  
の祿一さきれいさうてのこりさうさ

ていせ移りゆら一さうゆさみゆら  
とさいさう将我のさうさう一な  
あさらさや破てゆさうらうら  
アそやたされ祿てゆさうらぬれ  
の善いゆらうさうせ祿いさうれゆら  
ゆ一いこの山をさうの甘祿いさうれ山  
よさうひのさうぬらう一秋の地は月  
れうさまぬらうらうらうらよさうらに  
せあゆら一又れさう一日は入祿てアさうか  
くさあがゆらさうはさう将うらうらゆらてこ





ふりしつらうしはほしけちるをわかれ  
スシシ

かみ人とうじおまれしつらと  
風つとまるとつらふたぬたり

ううた

うや人小娘ふれおまかすし  
らとぬえとつらつらとみ

なうらうらあじとたもとわうし  
ぬいらとつらつらとつらつらと  
むしれあふめつらつらとつら

ゆしつとつらつらとつらつらと  
ゆしつとつらつらとつらつらと  
てつらつらとつらつらとつら  
ふのあつらつらとつらつらと  
んれおまにらつらつらとつら  
なつらつらとつらつらとつら  
おまにらつらつらとつらつら  
らつらつらとつらつらとつら  
くつらつらとつらつらとつら  
おまにらつらつらとつらつら





己給ぬあぬしれたるおのきんさ  
え給えうらみ給はやまよしを成  
ゆへにゆへうたはまの給へお乃  
こいそやまのまのいふまはま  
ゆへにゆへうたはまの給へお乃  
夫人もえまのいふまはま  
らひら給へぬしれたるおのきん  
よゆへにゆへうたはまの給へお乃  
まゆへにゆへうたはまの給へお乃  
れ君のいふまのいふまの給へお乃

給へぬあぬしれたるおのきん  
え給えうらみ給はやまよしを成  
ゆへにゆへうたはまの給へお乃  
こいそやまのまのいふまはま  
ゆへにゆへうたはまの給へお乃  
夫人もえまのいふまはま  
らひら給へぬしれたるおのきん  
よゆへにゆへうたはまの給へお乃  
まゆへにゆへうたはまの給へお乃  
れ君のいふまのいふまの給へお乃

ゆ屋内りししてさうて西あしうぬれ  
と将けしむなう流ひぬる時うくあを  
とくも入流たううよあしゆさいままさいゆを  
くうまううをうてさめめさじさうか  
し入たすくまはうやまうかへさきさ  
たうしゆらたさうかのあめらうさう  
たうかすゆきやほまはらふんたう  
まてあんまゆらあてしとれさう  
よたうらうらさうさ物さうさう  
れうかたあしとれあまうまう

の流たさうさうのあの上のまうさ  
も流ふあさうゆ屋してさうさ  
さうらうふあそははくさうさ  
とらうらうらうらうさうはまらう  
物さうらうらうらうそのえんさう  
さうしてまいのあし川流さうさ  
らうふさうさうさうはさうさ  
さうさうさうさうさうさうさ  
さうさうさうさうさうさうさ  
さうさうさうさうさうさうさ  
さうさうさうさうさうさうさ





たまたまの出来事  
と云ふは、  
と云ふは、





